

# I. 2012年～2020年の歩み ⑤

## 街並み保存修復事業 —高部宿編—

高部地区には魅力的な文化遺産が数多く存在します。高部館の城下町に起源をもち、今も町の中心地であり続ける高部宿の地割は、江戸時代からほとんど変わっていません。江戸時代から近現代にかけて造られ、現在まで守り伝えられてきた趣ある建造物の街並みを森と地域の調和を考える会では、地域の歴史的資源と考え、所有者の保存活動を支援する修復事業に取り組んでいます。



高部宿

岡山家養浩園



養浩園門復元/2017年



文化財庭園保存技術研修会/2019年



木橋復元/2014年

**岡山家養浩園**  
岡山家は江戸時代には特産の和紙を扱う紙問屋で、その後酒造業を営んでいました。明治20年(1887)頃に水戸音楽園の好文亭を模して木造三階建の「喜雨亭」と「養浩園」が造営されたと伝えられています。養浩園は回遊式庭園として整備され、3,000㎡(南北約80m、東西約40m)の園内には池、中島、橋、四阿、社などがあります。森と地域の調和を考える会では養浩園を地域資源として整備を進めてきました。そして2019年に「文化財庭園保存技術者協議会」の研修会場に選定され、全国の高い技術を持った庭師の方々によって築造当時の美しさが甦りました。



あずま屋補修/2017年



草刈り、落ち葉さらい、池整備



高部宿案内板設置/2017年



**平塚家時計塔**  
大正8年に建築された時計塔は高部宿のシンボルの存在です。



**天日様**  
天日神を祀る宗教施設です。天日神は「鴨祖(まさ)」とも呼ばれ、もとは中国で航海を守護する女神でした。その後日本にも伝わり、茨城県内でも高部の天日様を含めて鴨祖を祀る社が数箇所確認されています。高部宿に住む女性たちの信仰を集めていたと考えられます。



**間宮家住宅**  
明治35年に建築。木造2階建一部3階建193㎡。伝統的な商家風2階建ての和風棟と東側に接続する3階建て洋館からなる木造和洋折衷住宅です。国登録有形文化財(平成15年7月1日登録)。



**平塚家見世蔵**  
見世蔵は商家建築の一種で江戸時代以降に流行った住宅建築様式です。平塚家は大地主で、屋号は「米屋」。土物の呉服屋でした。よろずや(年貢米、みそ、しょうゆ等の専売品や衣服)で金目のものは蔵の中に納めていたようです。



**大森家古文書**  
大森家は、紙を扱う問屋、商家、天狗派に属し、水戸藩から名字筆力が許され「山崎目」の職に就きました。多くの古文書が残されています。



**国松家旧郵便局**  
旧郵便局舎は1907年(明治41年)建築。大森家から移入されました。



**岡山家喜雨亭**  
明治20年頃、水戸音楽園の好文亭を模して作られた3階建ての楼閣。杜甫の詩「春夜喜雨」(しゆんやあめをよるこ)から名付けられました。隣接して同時代に作られた庭園「養浩園」があります。



**旧金杉屋旅館**  
江戸時代に創業し、昭和30年頃まで営業していました。高部宿が林業・和紙・製紙・製糖・製粉などを中心に築いていた園、商人などの宿として利用されていた当時の姿が偲べます。

